令和３年度第２回「知事と一緒に生き活きトーク」発言要旨

１　テーマ：みらいに　まっすぐ　さぁ今から　かけだそう　からはじめよう！
～社会的自立を目指したこれからの不登校対策について～
２　日　時：令和３年８月１８日（水）１４：００～１５：２５
３　場　所：美作市湯郷地域交流センター（美作市湯郷８２６）
４　参加者：不登校対策に取り組む学校現場、支援組織など６名
５　知事挨拶
　不登校の児童生徒への支援に取り組む皆様から、取組を通じて感じたことや課題、今後の不登校対策に必要な取組や、課題解決に有効なアイデアなどについてお聞きしたい。

６　発言内容等
【自己紹介】
・地域の保健師として母子保健活動を担当し、保護者や子どもと関わり、家庭訪問や育児相談など、就学前の家庭への必要な支援を進めている。
・小学校高学年から中学校の時に不登校を経験し適応指導教室へ通った。将来は、不登校の子どもたちへの支援に関わる仕事に就きたい。
・ＰＴＡの立場から学校の様子を見ると、学校行事への父親参加が少ないように感じる。父親の参加が増えればＰＴＡの取組や学校の雰囲気も、また変わったものになると思う。家庭同士の交流も増え、子どもたちの交友関係も広がると思う。
・中学校で不登校対策別室の専属教員をしている。教室への復帰を目指し、個々の子どもたちの状況に応じた学習・生活支援を実施している。
・県教委からの委託を受け、小学校に不登校対策のための別室を開設した。同校には、以前にも赴任していたことがあるが、以前と比べると、家庭や交友関係など、子どもたちをとりまく環境は様々な面が多様化し、不安を持ち、自信を失った子どもたちが増加していると感じている。
・適応指導教室で、不登校児童生徒の学校生活への復帰に向けた支援を行っている。子どもたちの中には教室へ通う登録をしていても、来にくい、来られない子もいるため、学校や家庭としっかりと連携していかなければならないと感じている。

【取組を通じて感じたこと、成果や課題など】
・先ずは、子どもたちの生活習慣を確立することが大切で、個々の状況に応じた生活支援が必要になる。また、自己肯定感を高めることが大切で、家庭の雰囲気づくりや外部と繋がる社会参加に向けた取組も重要になる。家庭教育への保護者の積極的参加を促す取組も必要である。
・不登校になると人間関係や身近な大人への不信感などもあり、周りとの関係を遮断してしまう。保護者や親類、周りの大人などの身近なところに、信頼できる人、社会参加への道筋を示してくれる人がいると良い。
・子どもたちが、自分の得意なこと、好きなことを深める「ナンバーワン・チャレンジ」を行い、地元ケーブルテレビと協力して発信する取組を実施している。
・中学校の不登校対策のための別室では、学校（別室）、教員と子どもたちの繋がりを大切にしており、その一環として、野菜作りに取り組んでいる。子どもたちは野菜を自分で植え、育てることで、生育を楽しみにして、学校を休んだ日も野菜

を気にかけるなど、子どもたちの役割づくり、居場所づくりに繋がっている。また、教室復帰に向け、クラスの雰囲気を伝えるため、授業風景を録画して見せるなど ICT も活用している。

・教員が本気で子どもへ「笑う、認める、しかる」など関わることが大切である。クラスや集団の雰囲気づくりをするのは教員の役割であり、子どもの前では率先して大きな声で笑おうと呼びかけている。学校へ登校しづらい子どもたちを受け入れる集団、学校や学級づくりも教員の仕事である。子どもが頑張ろうとする姿を認めていくこと、それは教員が望む姿を認めることではなく、子どもたち自身が学びに前向きになり、人間関係が向上していくよう取り組むべきである。

・学校生活への復帰に向けた取組として、具体的な行動の選択肢を、段階的に示すことが大切である。学校の校門まで行ってみよう、職員室まで行ってみよう、クラスのみんなが居ない時に自分の机を見に行ってみようなど、今日はここまでといった具合に、気が進まない子どもも少しずつ前進して出来たという経験が登校へ繋がった。

【今後の必要な取組、効果的な支援、アイデアなど】

・保健師として、関係機関と連携して、子どもたちが自己肯定感を高められるよう、家庭への支援を行っていきたい。

・学校へ行けない子どもたちが、やり甲斐を見つけ、色々な繋がりを持って取り組めるようバックアップする環境を作りたい。

・コミュニケーション能力や社会性を身に付ける取組や学習を、小さな頃から進められるような環境整備が必要である。子どもたちが目標に向かおうとする姿を応援できる大人のバックアップも必要である。

・不登校対策のための別室が子どもたちと学校をつなげる結節点になる。ここで得られた好事例を、不登校対策のコーディネーターとなる教員へ広げる場を作る必要がある。

・幼保小中高の切れ目ない連携が必要になる。学校サイドだけでは難しいため、連携を担う行政の力が必要となる。

・子どもの自己肯定感の向上、人間関係づくりなどを指導できる教員の力量アップの機会を増やす取組も必要である。学校と家庭との関係づくりのため、時には、子どものために、教員が家庭へ意見する「あつかましさ」も必要になるのではないか。

・子どものことで悩みを抱え込み、SOS を出せない保護者もいる。保護者のケアやサポートも必要である。保護者との信頼関係は大切で、保護者の協力が絶対必要である。１対１で時間をかけて寄り添いサポートできる人材が必要である。

7　知事まとめ

・不登校は、その子の将来に大きな影響を与える。保護者や身近な大人、教員、専門家などが参画、連携してアウトリーチ型のアプローチを続けることが大切であり、個々の状況に応じた支援が必要となる。

・幼保小中高で切れ目のない支援が必要であり、また好事例は横展開し、県内に広めていく必要がある。

・県としても様々な取組を進めていきたい。